

四国から世界へ

ID番号：SL400291

愛媛県立宇和島東高等学校

チームリーダー 3年 伊尾喜千夏

チームメンバー 3年 西田樹理

3年 千葉麻衣子

指導教諭 徳田博美

購入した銘柄

株式コード	上場市場	県名	銘柄名	投資金額
2873	東証1部	香川	加ト吉	200,000
1939	東証1部	香川	四電工	500,000
5711	東証1部	香川	三菱マテリアル	190,000
6503	東証1部	香川	三菱電機	500,000
9507	東証1部	香川	四国電力	200,000
2578	東証1部	香川	四国コカ・コーラボトリング	110,000
4686	JASDAQ	徳島	ジャストシステム	150,000
8388	東証1部	徳島	阿波銀行	680,000
1515	東証1部	高知	日鉄鉱業	320,000
3891	JASDAQ	高知	ニッポン高度紙工業	710,000
3880	東証1部	愛媛	大王製紙	970,000
6005	東証1部	愛媛	三浦工業	140,000
3401	東証1部	愛媛	帝人	330,000
合計				5,000,000

テーマ設定の理由

わたしたちは高校3年生で、来年には各々、自分の進学先に旅立って行く。私たちは自分たちの生まれ育ったこの四国に愛着を持っているが、私たちを含め、多くの若者は都会に出て行くようになり、町の商店街なども活気が無くなっていく一方だ。また、コンサートなどの全国ツアーと言われるものの多くは当然のように四国を飛ばして行われており、四国という地域が日本の中で重要視されていないのではないかと残念でならなかった。以上の点をふまえると四国は若者も少なく、商店や企業も育ちにくい土地なのではないかと思うかもしれない。しかし私たちは私たちの四国が日本にとってどれだけ価値があるのか、四国にも世界に誇れるものがあるのだということを証明したくなり、このストックリーグに参加することをきっかけに、世界に誇れる企業を四国内から探し、その企業を投資という形で応援したいと考えた。

現在、四国と本州を行き来するための手段は、船、飛行機などの他に3つの連絡橋があり、交通の便はどんどん良くなっている。四国は決して企業が発達しにくい土地ではないのだ。

以上のことから四国には無限の可能性があると確信し、私たちはテーマ設定を「四国から世界へ」に決めた。



資料：「本州四国連絡道路の利用案内」本州四国連絡橋公団

選んだ企業

加ト吉：冷凍食品【水産フライ（えびフライ、かきフライ、魚フライ）、うどん・そば、お好み焼き・たこ焼き】の生産日本一

四電工：空調・衛生・給排水の設計、施工

三菱マテリアル：金の生産日本一

三菱電機：高圧真空遮断器の生産日本一

高圧交流電磁接触器の生産日本一

四国電力：電力取引所の創設、電力開発

四国コカ・コーラボトリング：ジュース・コーヒーなどの生産、加工、販売

ジャストシステム：ナレッジマネジメント向けシステムでシェア日本一

阿波銀行：徳島県の手銀行

日鉄鉱業：石灰石の生産

ニッポン高度紙工業：電解コンデンサ用セパレータ国内約95%、世界約70%の生産シェア

大王製紙：単一工場での紙・板紙の生産日本一

三浦工業：小型貫流蒸気ボイラーの生産日本一

帝人：DVD用ポリカーボネート樹脂の生産世界一

CD用ポリカーボネート樹脂の生産日本一

選んだ会社の説明

加ト吉

加ト吉は昭和31年の創立以来、常に時代のニーズを先取りし、数多くの冷凍食品を市場に送り出している。エビフライ・コロッケ・冷凍麺・冷凍米飯、さらに無菌包装米飯・ミネラルウォーターなどの常温商品も拡充し、素材の品質や鮮度、おいしさへのこだわりを徹底して、開発・生産している。

また、テーマパークのレオマワールドの再建にも加ト吉は協力しており、食品だけでなく、地域振興にも貢献している。

さらに、国内市場では高齢化社会に対応して、老人介護食や医療食の分野にも積極的に取り組み、新しいニーズにも挑戦している。

加ト吉の製品はCMなどでも放送されており、誰もが知る商品を製造・販売している。
また、本社は香川県にあり、全国各地や中国、タイ、インドネシアにも工場がある。四
国が誇る大企業だ。

****四電工****

四電工は、未来を開く総合設備産業を目指し、業務内容の拡充、高度の技術集団作りにつとめ、多様化・高度化するニーズに即応した優れた設備を提供し、ゆとりとうるおいのある生活空間作りに貢献している。

また、「お客様第一」「誠実」をモットーに最高の技術とサービスを通じてお客様の満足と信頼を目指している四電工は一人一人があらゆる可能性に挑戦して創造と成長につとめ、若さと活気に満ちた明るい職場をつくっている。

四電工は電気・空調・衛星・給排水など設計、施工を通じての大手企業だ。

****三菱マテリアル****

三菱マテリアルは資源循環型・高度情報化社会の中で、顧客の立場に立って、ユニークな素材・製品・サービスをシステム化し、提案・提供していくことにより、世界有数の企業グループとなっている。

三菱マテリアルの主な企業理念は4つある。

1. グローバルスタンダード経営
ステークホルダーの利害のバランスをとりつつ、世界に通用する透明かつ効率的な経営の実行。
2. トータル・ポートフォリオ・マネジメント
常に形成資源を戦略的に分配し、環境変化を先取りした事業の展開。
3. コア・コンピタンスの創造・育成
顧客に認められる価値と自社の優位性を見極め、圧倒的に競争力を持ったモノ作り・システム作り。
4. イノベーションの追求
独自性・革新性を大事にした事業の創造。

このように時代のニーズに応え、時代を越えようとしている。

****三菱電機****

三菱電機はエアコン・冷蔵庫・洗濯機・乾燥機・掃除機・カーナビ・携帯電話などあらゆる商品を製造・販売している。また、あらゆるテレビ局でCMを放送しており、ユーモアかつわかりやすいCMは人々にとても印象をあたえている。特に携帯電話は国民に手放せない存在になっているが、NTTドコモなどの携帯電話も作っている。

時代はより便利さを求めているので、三菱電機はこれからさらに発展していくと考えられる。

****四国電力****

四国電力は国際競争力の回復や経済の再生を目指し、経済・産業・会社のあらゆる分野で、構造改革への取り組みが進められている。電気事業においても、小売自由化範囲の拡大や全国規模での卸電力取引所の創設等、大きな制度改革案が取りまとめられ、電気事業法の改正が進められるなど、事業環境は大きく変化している。

四国電力は、こうした環境の変化に積極的に対応し、電気事業の競争力強化はもとより、「よんでんグループ」全体の収益性・成長性・安定性をいっそう高め、企業価値の向上を目指している。

電力は、私たちの生活に必要不可欠なものであるとともに、近年電力は入札がおこなわれるようになるなど、経済価値も高まってきている。

****四国コカ・コーラボトリング****

「いつでも、どこでも、だれにでも、爽やかさをお届けする」を合い言葉に、四国4県にコカ・コーラをはじめとする清涼飲料を製造し、届けている。販売増とシェア拡大、経営効率の向上、一層のコスト削減に努め、企業価値の最大化を図り、ゆるぎない一流の企業を目指しながら、現在、原材料の調達・製造・物流の業務プロセスを最適化するSCM（サプライ・チェーン・マネジメント）の構築をコカ・コーラグループ協働で進めており、これに積極的に参画している。社会貢献活動や環境保全活動、工場見学などを行うことで地域に根ざし、2000年11月には本社および小松第2工場において、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、環境負荷の低減と更なる環境マネジメントシステムの継続的改善を目指している。

**** ジャストシステム ****

ジャストシステムは、情報がデジタルに姿を変えて、国や組織、時間の流れ、人種の違いなど、既成の枠組みを軽々と超越し流通している現代に必要なワープロ、文書作成ソフトの「一太郎」や ATOK、ホームソフト、インターネットディスクなどを製造している。凄まじい勢いで社会全体の価値転換が進むこれからの時代。ナレッジ、すなわち人間の知識や知恵をどのようにマネージメントしていくかが、企業経営を左右するといってもいいだろう。創業以来、人間の思考にダイレクトに結びついた「ことば」でコンピュータを操る自然言語処理テクノロジーに取り組んできた同社は、膨大な情報資産から有益なナレッジを見つけだし、企業全体の競争力の源泉として組織的に活用する、このナレッジマネジメント向けシステムでシェア約30%と日本一を誇っている。また、「一太郎」で知られている同社は、ナレッジを柱にした総合的なシステムを提供する企業に生まれ変わりつつある。「一太郎」は使用頻度が高く、私たちのワープロ検定時にも使われている。コンピュータは今やどの家庭にもあるほどだ。言わば生活必需品である。また、本社は四国の徳島県にある。

**** 阿波銀行 ****

阿波銀行は徳島県にある大手銀行だ。就職・結婚・出産・教育、そしてマイホームから老後まで、人生設計のあらゆる場面でバックアップをされていて、ライフステージにおけるニーズに対応するさまざまな商品をラインナップしている。また、『信用の重視』『地域への貢献』『お客様第一』『人材の育成』『進取の精神』の5つをモットーにし、徳島県民がより良い生活を送れるように日々、努力している。また11月には純利益が最高の34億円の黒字となり、より顧客の信用を得て、またこれからも成長を遂げていきそうだ。

**** 日鉄鉱業 ****

石灰石国内年間生産量2億トン弱のうち日鉄鉱業は、年間約2,500万トンを生産し、業界トップクラスであるとともに、鉄鋼業界向けは約40%のシェアを占めている。また、国内最大級の石灰石鉱山である鳥形山（高知県）をはじめ、津久見（大分県）、尻屋（青森県）など、全国各地の鉱業所において生産されている。生産工程は、大型の採掘機械を導入し、先端技術を駆使して自動化・無人化を進めるなど、システム化、ハイテク化を積極的に推進している。

このほか、製鉄用副原料として欠くことのできないけい石、ドロマイトの生産も行っている。また、全国各地に砕石事業所を開設し、関係会社を含め年間約 700 万トンの各種骨材を供給している。

****ニッポン高度紙工業株式会社****

同社は昭和 16 年の創業以来、千年以上の歴史を持つ土佐手すき和紙の技術を礎に研究開発を行い、高・低密度紙を張り合わせた二重紙の生産技術等を確立。そうした技術により電解コンデンサ用セパレータの製造を手掛けている。

電解コンデンサは、エレクトロニクス製品などに必要不可欠な円筒状の電子部品で、その中にアルミ箔と一緒に巻かれているのが、電解コンデンサ用セパレータだ。同社の電解コンデンサ用セパレータは、15 ~ 130 ミクロンと非常に薄くかつ丈夫であり、60 年に及ぶノウハウを活かした技術・開発力は他社の追随を許さず、国内で約 95%、世界で約 70%もの生産シェアを占めている。

****大王製紙株式会社 三島工場****

同工場では、最新のテクノロジーを駆使して、新聞用紙をはじめ出版用紙、印刷用紙、情報用紙、家庭用紙、包装用紙から段ボール原紙など約 2 万種類を越える紙が抄造されている。当社は、売上高 3,300 億円で国内第 3 位(世界第 20 位)の総合製紙メーカーだ。

三島工場(愛媛県伊予三島市)は、単一工場としては世界最大級の臨海工場(50 万坪：東京ドーム 34 個分に相当)であり、約 2 万種にも及ぶ紙をパルプから一貫生産している。特に、紙・板紙分野においては、単一工場で日本一の生産実績を誇っている。

****三浦工業株式会社****

産業用小型ボイラーのトップメーカー。熱と水と環境を提案する、テクノサービス集団。全国に 100 カ所の拠点を展開し、産業用小型ボイラーのトップメーカーを独走中。現在、約 50%と日本一の生産シェアを誇っている。海外でも、台湾、韓国、カナダ、米国、中国(上海)、マレーシアで、Z ボイラブランドを拡大中。日本ガス協会賞・日本機械学会賞など数多くの賞を受け、ハード面での発展を続ける一方、ソフト面では、「テクノサービス・エボリューションで、熱・水・環境のベストパートナーを目指す」というテーマのもとに、創造性あふれる提案型企業「ミウラ」は限りなく進歩し続けている。

社会貢献・地域活動について

私たちは「四国から世界へ」というテーマ設定から、まず四国の活性化につながる活動を行っている企業も選んだ。また、自然あふれる四国を守るため、環境保全活動にも積極的に取り組んでいる企業にも注目した。

四国コカ・コーラボトリング	高円宮杯全日本中学校英語弁論大会	<p>「高松宮杯全日本中学校英語弁論大会」の設立目的に賛同し、1963年から協賛を開始し、名称も1999年度(第51回大会)より「高円宮杯」に継承された。コカ・コーラグループの社会貢献活動でもっとも長期にわたる37年間、毎年協賛している。</p> <p>本大会は、国際性豊かな青少年を育てるために、国際語である英語を熟達させるとともに、広くその普及を図り、日本文化の発展ならびに国際親善に寄与することを目的としている</p>
	日本コカ・コーラボトラーズ育英会	<p>奨学金授与は、企業の地域コミュニティーづくりを目的に、1966年からスタートした。経済的理由で進学困難な優秀な若者を社会に貢献できる人材に育てることが目的。</p> <p>受給奨学生が多いこと、公平な選定基準、返済義務や卒業後の就職先制約がないこと、さらに育英同窓会の活動など、一企業グループの奨学金制度としては他に例を見ない活発な活動が高く評価されている。</p>
	全肢連への支援活動	<p>1980年より「全肢連(社団法人 全国肢体不自由児・者父母の会 連合会)」と協力して、各地の学校や公民館などの公共施設や公的場所への「全肢連」のステッカー付自動販売機(全肢連管理)を積極的に設置してきた。1983年には全国のボトラー社と「全肢連」との協定書契約の締結が完了し、全国規模での福祉イベントの支援等を含む協力関係が確立した。</p> <p>現在、「全肢連」のご協力により全国で約1,400台のコカ・コーラの自動販売機が公共施設・学校などに設置され、その自動販売機からの売上金の一部にあたる約1.5億円が、毎年「全肢連」「県肢連」の活動費として運用され、累計では約10億円に及んでいる。</p>
	一輪車指導者研修会	<p>日本の青少年の情操教育に役立つという観点から、1988年より日本一輪車協会と共に一輪車の普及に努力してきた。また同年に最初の一輪車を寄贈して以来、全国のボトラー社の累計寄贈台数は10,000台を越えている。</p> <p>また、「さわやか全日本一輪車競技大会」、「全日本一輪車駅伝大会」、「全日本一輪車マラソン大会」等の全国規模の競技大会にも協賛している。そのほか、小学校の教師を対象とした「さわやか一輪車指導者研修会」にも参加している。</p>

	赤とんぼの街づくり運動	街の美しい景観と環境維持をテーマに、日常的に市民に環境意識を訴えるため、小学生及び保護者を対象とした、「学んで遊べる写生大会」・「ネーチャーゲーム」などを通じ、毎年自治体の協賛を得て開催している。
	工場見学	消費者の方に四国コカ・コーラボトリング(株)の製品をより深く理解していただく為、工場見学を積極的に取り組んでいる。
阿波銀行	阿波銀行青少年スポーツ大会	徳島の将来を担う子供たちにスポーツを通して健全な肉体と精神を育んでもらうため、毎年開催している。
	科学体験フェスティバル	徳島の未来を担う子供たちに科学の楽しさを知ってもらうため、四国電力徳島支店との協賛により、徳島大学工学部において開催している。
	アドプトプログラム「うちの土手」清掃活動	平成11年7月に、吉野川大橋から西へ600mの南岸を担当区域としてアドプト(養子縁組)した。アドプトプログラムとは清掃ボランティア活動のことで、この区間を「うちの土手」と命名し、清掃・美化活動に取り組んでいる。
	「小さな親切」運動	「小さな親切」運動の徳島県本部事務局を務めるとともに、全行員が「小さな親切」運動に入会しています。今年も日本列島クリーン大作戦やコスモスの種子の配布などさまざまな行事に積極的に参加し、ボランティアの輪を広げている。
	(財)阿波銀行福祉基金	昭和51年9月の基金設立以来、徳島県内の児童福祉施設や保育園、あるいはお年寄りや身体障害者の福祉施設・団体に備品や教材を寄付するなど、幅広く助成活動を続けている。
	(財)阿波銀行学術・文化振興財団	平成7年1月の財団設立以来、徳島県内における優れた学術・文化活動に助成・協力している。地元の産業・学術・文化の発展や振興に貢献することにより、徳島県の豊かさを現出できるような地域づくりを進めている。
	地域行事への参加	ふるさととともに歩む銀行として、地域の人との暖かいコミュニケーションを大切にしたいと考え、地域の行事や催し物にも積極的に参加・協力している。郷土徳島の夏を彩る「阿波踊り」にも参加している。

大王製紙	大王製紙エリエールレディスオープン	女子プロゴルフトーナメントである「大王製紙エリエールレディスオープン」は、当社の家庭紙ブランドである「エリエール」の知名度アップとゴルフ界及び地域社会への貢献を目指し、1982年(昭和57年)に開始した。大会はエリエールゴルフクラブ(香川県三豊郡財田町)もしくはエリエールゴルフクラブ松山(愛媛県松山市)にて開催している。当大会の主な特徴は、当社の社員がキャディ、マーカ
------	-------------------	---

		一、速報といった競技運営を始め、受付や駐車場係に至るまで自らの手で運営している「手作りの大会」であるということがあげられる。これにより、ギャラリーや出場選手、地元関係者と直接的なコミュニケーションを実現しています。
三菱電機	SOCIO-ROOTS 基金	社員の寄付に対し、その金額と同額を三菱電機が加えることで、善意の心を倍にする基金。 各事業所が主催する地域イベントでの売上金やバザーなどで得た収益金をこの基金へ貯託すれば、三菱電機がその金額と同額をプラス。社員が活動して得た2倍の金額を社会貢献活動に役立てている。
	若潮会・セミコン祭り (高知)	社員及び地元住民との交流を図ることを目的として、毎年7月に「若潮会・セミコン祭り」を開催している。この催し物は、「ピアガーデン屋台村」形式で社員が会場の設営から模擬店運営までを行う、社員手作りの夏祭りで、地元住民の方にも大変好評を得ている。
帝人	ファミリー夏祭り	帝人グループでは、地域の方とのふれあいの一環として、各地の事業所、工場で、イベントを開催している。松山事業所では、南地区総合グラウンドで恒例のファミリー夏祭りを開催している。
	大手企業と中小企業との製品・技術等交流会	愛媛県経済労働部主催による「大手企業と中小企業との製品・技術等交流会」が開催され、帝人(株)松山事業所も製品・技術の紹介を行った。 本交流会は、県内大手企業と意欲ある中小企業の交流を促進して地域産業の活性化を図るのが目的で、県内中小企業72社が参集し活況を呈した。
三浦工業	三浦教育振興財団	愛媛県に在住し優れた才能と自ら学ぶ意欲を持ちながら、経済的理由により就学困難な学生に対して奨学金給付事業を行い、社会有用な人材の育成の一端を担い、少しでも地域社会、国際社会に貢献したいという三浦工業元会長(故)三浦保の願いの元に1990年に設立された教育振興財団。

四国電力	地域共生活動	四国 8 8 ヶ所へんろ道案内標識取付 重要文化財の電気設備の点検、清掃 街路灯の寄贈 科学体験フェスティバル よんでんレクバレー大会 クリーン運動 地域イベントへの参加 施設見学会 など
	I H体験クッキング	ヨンデンプラザでは電気調理器や電気温水器など、最新の電化アイテムがいつでも体験できる。館内では電気調理器を使った料理教室も開催しており、調理をしながら楽しく体験できる。
加ト吉	レオマワールドの再開	休園中のテーマパーク「レオマワールド」(香川県綾歌町)の運営会社となり、マルナカなど四社連合で、旧レオマを引き継ぎ「香川県観光開発」を立ち上げて、本格的な開園準備を進めている。施設名を「ニューレオマワールド」とし、今年4月10日をめどに開園すると発表している。 香川県観光開発は資本金12億円で、加ト吉(同県観音寺市)グループなどが出資。社長は加藤義和・加ト吉社長が務める。

- コカ・コーラボトリングを見学して -

11月28日、私たちは株を購入した四国コカ・コーラボトリングの工場見学に行った。小学生と見学日が一緒だったが、合同の見学後、改めて時間をとって私たちの質問に答えてくれたことや、私たちの質問が手元の資料で答えきれないときはわざわざ新しい資料を取りに行っていたり、明るくきさくな企業のイメージを受けた。

また、見学のお土産としてコカ・コーラ社製品やプランターをいただいた。このプランターはリサイクル活動の1つとして、製造過程で出るコーヒーかすとプラスチックを混ぜて作ったものだそうだ。他にもお茶の葉の残りを枕の中に入れていたり、ペットボトルは工場の制服に生まれ変わっていたりと、常に環境保全を大事にして、現在、99%はリサイクルを達成しており、ゴミ0%を目指している。その上、排水場所はコイが泳げるくらいにきれいにしているなど環境に対する配慮もしっかりしており、本社、小松第2工場共にISO14001認証を取得している。

小松工場では数多くの製品を製造しており、すべてが最新式の機械によるオートメーションで作られていたが、人間の目によるチェックも行われており、製品に対する厳しい姿勢が伺えた。衛生管理面ではトイレは手をアルコール殺菌しないとドアが開かないという工夫がされ、品質に対して安心感を持てた。最近では、コカ・コーラ自販機とiモードを連携させたCmodeサービス対応自販機「シーモ」を設置し始めた。愛媛県内にはまだ数台しかなく、まだまだ増やすには時間がかかるが、新型情報端末としてコカ・コーラと消費者のコミュニケーションをはかるといふ。携帯電話の充電機能やニュースの表示などのたくさんの機能を備えており、これからのシーモの活躍にも期待できるだろう。



・これはコカ・コーラに見学に行ったときの写真です。いろいろな機械がありました。

- 四国電力を見学して -

私たちの生活に欠かせない電力を作り送り届けてくれている四国電力の会社を見学に行った。四電の株はとても安定しており、年間1割の配当をしている。私たちの身の周りで考えると、漁業やみかんを生産している農家の人など、たくさんの方々が四電の株を買っているようだ。

また、四国電力は、低廉で良質な電気を届けるための努力を日々行っている。四国電力は平成8年1月から現在までに4回の電気料金の値下げを行っており、引下げ率は約22%となっている。地域住民により親しみやすい価格にするためにさまざまな課題にチャレンジしている。また、新技術・新工法の導入や、送電線・配電線のきめ細かな保守点検の実施により、欧米と比べても断然四国電力は停電時間が少ない。良質で安定した世界トップレベルの高品質な電気を送っていることがわかる。

四国電力は22%もの電気料金を下げたにもかかわらず、人件費などを懸命に削減したりして利益をあげている。経常利益は毎年400億円前後で、誰もが信頼できる会社だ。

環境問題に関しても力を入れて取り組んでいる。環境負荷軽減型の電力設備の形成・発電、輸送効率の向上・負荷平準化、電力有効利用、省エネルギーの推進・未利用エネルギー等の活用、環境対策技術の研究開発・資源有効利用の促進・広報、広聴活動や国際協調など、挙げていけばまだまだある。このように四国電力は電力を通しての環境保全を惜しみなく続けている。

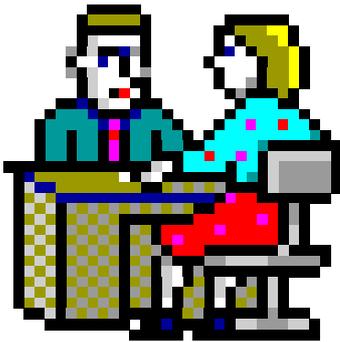
また、四国電力は国際化の現代に欠かせない国際交流なども行っている。フランス電力公社や米国のエクセル・エナジー社と原子力に関する技術・情報交流をしているほか、近年、電力需要が急増し、供給力確保が急務となっている中国とは、国家電力行司西北行司と、技術交流に関する覚書を結び、情報交換や専門家の相互派遣を定期的実施したりしている。

最先端の技術を追い求める四国電力は電化住宅などを開発している。また電化製品を使っているクッキング教室も行っている。

この世の中は電気なしでは暮らしていけない。もし電気がなくなったら日没と共に一面が真っ暗になり、そして犯罪が増加し、社会情勢が悪化し治安が悪くなる。また、日常生活の機能が麻痺してしまう。交通機関も止まり、製造ラインもストップし、世の中が成り立たなくなる。このようにとても大事な電気を日々の努力によって電気をより求めやすくし、また環境にも取り組んでいる四国電力にこれからよりいっそう期待が強まる。

投資結果

株価は、需要と供給のバランスによっても左右される。売りに出される株数よりも買いの株数の方が多ければ(需要 > 供給) 株価は高くなり、逆に、売りに出される株数が買いの株数を上回るとき(需要 < 供給) には、株価は下がる。企業の業績が伸び(伸びることが予想され)れば、株主への配当金の増加や将来のキャッシュフローの増大などが期待される。また、配当金の増加は株式投資の直接リターンの増



加につながり、将来のキャッシュフローの増大は企業価値の増大(= 株価の上昇)につながり、将来のキャピタルゲインが期待できる。企業が属する業界や競合他社の動向も株価に直接的に影響を与える要因だ。株価は、国内外の政治、景気、為替などの動向などからも多大な影響を受ける。これらの要因はマクロ経済的な視点から株式市場に影響を与えているので、株価は個別に影響を受ける場合もあれば、業界もしくは株式市場全体で影響を受けることもある。(四国経済産業局より参照)

このことから、私たちが株式投資をしたことにより、需要が増し、株価がたかくなったのではないだろうか考える。株式投資というものは、その会社だけではなく、社会全体にもたらした影響もあると思う。四国という地域は世界、全国に比べるととても小さな地域で株価はあまり変動せず、あまり利益はあげられないと思っていた。だが、四国の企業は思った以上の成長を遂げ、大きな利益を上げることができた。四国財務局が発表した 10~12 月期の景気予測調査結果によると、景況判断 B S I (景気が「上昇」と回答した企業の割合から「下降」と回答した企業の割合を引いた指数)は、全産業で - 6.1 となり、前期(7~9 月期)に比べ - 6.8 ポイント改善した。マイナス幅が一けたになるのは 1997 年 1~3 月期以来、約 7 年ぶり。同局は「市況の回復などにより、製造業を中心に大幅に改善している」と総括している。業種別にみると、製造業は前期比 9.9 ポイント改善の 7.7 で、7 年ぶりにプラスに転じた。パルプ・紙、鉄鋼、電気機械でそれぞれ需要・受注が増えてプラス幅が拡大。繊維は海外製品との競争などで落ち込んだが、窯業・土石、化学、食料品でマイナス幅が縮小、造船・一般機械はプラスに改善した。

四国の企業状況（アンケート調査結果から）

1. 経済の国際化（グローバル化）による影響（回答企業数380）

- (1) 企業活動への影響は、プラスと判断している企業は8%に過ぎず、国際化の潮流に対して海外への販路開拓等を積極的に進めている企業は少ない。
- (2) マイナスと判断している企業は43.7%であるが、その対応としては、「営業力の強化、国内の新規顧客の開拓」をあげるものが多い。

2. 輸出の状況（回答企業数380）

- (1) 輸出をしている企業97社、輸出の計画・構想のある企業37社の計134社(35.2%)が輸出に取り組んでいる。
- (2) 輸出ルート開拓は、国内商社を通じて行うものが多い。
- (3) 輸出先としては、NIEs3（韓国、台湾、シンガポール）が多い。

3. 海外直接投資の状況（回答企業数380）

- (1) 海外直接投資（海外現地法人等の設置）を行っている企業31社、今後設置予定のある企業41社の計72社(18.9%)が取り組んでいる。
- (2) 輸出先としては、中国が多い。

4. 技術輸出の状況（回答企業数380）

- (1) 技術輸出をしている企業は11社、今後輸出の計画のある企業18社の計29社(7.6%)と少ない。
- (2) 輸出先としては、NIEs3（韓国、台湾、シンガポール）が多い。

5. 国際ビジネス展開の際に利用した機関（回答企業数94）

「商社・貿易会社」が59.6%と最も多く、次いで、「ジェットロ各県貿易情報センター」となっている。

6. 国際ビジネス支援機関への要望

- (1) 支援機関が行うサービスへの要望としては、「情報提供（海外の事情・商慣習・法規制等）」を一番にあげている。
- (2) 改善してほしいものとしては、支援機関・情報の所在に関するものが多い。

7. 国・県に対する意見・要望

- (1) 情報提供の支援としては、「海外企業の信用調査」、「情報収集力の強化」、「海外展開失敗事例データの整備」、「中小企業の国際ビジネス展開事例の紹介」などをあげている。
- (2) 相談窓口に関しては、「実務レベルの相談窓口の設置」、「相談窓口の一本化」をあげている。

四国経済産業局「国際ビジネス展開による

企業の発展支援方策に関する報告書」より参照

このアンケート結果を見て、四国の先進的企業は、中国へ多く進出していることがわかる。日本への逆輸入のための生産拠点、現地企業として事業展開、現地市場開拓も視野に入れた生産拠点とする目的があるようだが、国際化の潮流に対して海外進出を積極的に進めている企業は少ない。現地でのマネジメントの難しさがあるのではないか。四国の企業は国内の新規顧客の開拓に力を入れたいとしており、日本国内での経済発展に臨んでいる。四国の企業が国際的に発達するためには、次の4つがあげられる。

- (1) 事業拡大型(加ト吉・三浦工業)
- (2) 地場産業業種転換型(アイリス)
- (3) 新技術・商品開発型(阿波製紙・宇治電化学工業)
- (4) 新規事業立ち上げ・SOHO型(有限会社華らんや)

この4つの施策によって、四国の企業がより全国や世界に進出できるのではないかと考える。

また、潜在的な人的資源の活用や情報の蓄積・発信の拠点づくり、マクロ的対策やネットワーク化など推進すべき支援施策を通じて国際ビジネスにより積極的になるべきではないだろうか。

今後の四国企業の発展に期待したい。



大王製紙三島工場 (<http://www.daio-paper.co.jp/>)



三浦工業(<http://www.miuraz.co.jp/profile/index.html>)



加ト吉山東省即墨工場(<http://www.katokichi.co.jp/info/info.htm>)

ストックリーグを終えての感想

私たちは今まで株に触れる機会がなくまた、あまり考えたこともありませんでした。初めは自分が何をしたいか分からず、メンバー全員が戸惑うばかりでした。でも、テーマを設定したころから少しずつではありますが、みんなストックリーグに興味を持ち始めました。テーマが自分の住んでいる愛媛を含めた四国の企業ということもあり、意欲的に取り組むことができました。普段何気なく生活していますがいたるところに私たちが選んだ企業が関わっていることがわかりました。その企業をいろいろな観点から見るできるようになり、また広い視野を持つことができました。

私たちは、まずインターネットで一つの企業について詳しくまとめることで初めは何もわからなかった企業にも少しずつ親近感がわいてきました。会社概要や環境問題への取り組みを中心として企業の一番の特徴を見出せるよう細かく調査しました。また、県内にある四国コカ・コーラボトリングの工場見学や四国電力へも訪問しました。インターネットだけでは分からないような詳しい部分などもわかりとても勉強になりました。

ただ単に株を買って利益をあげるだけの単純な仕組みだと思っていたけど、調べていくうちにそうではないとわかりました。高校最後の年にストックリーグに参加でき、本当によかったと思います。これを通じて四国をより身近なものにすることができました。これからも愛郷心を強く持ち、生活にはいろいろな人の努力積み重ねや協力があるということをお忘れないうえに、仲間と協力しながら作業することの大変さを学んだと同時にそれを終えての充実感が身にしみました。この経験をこれからも生かしていきたいです。

終わり。